

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201427		
法人名	社会福祉法人長崎友愛会		
事業所名	グループホームゆうあいホームさわやか		
所在地	長崎県佐世保市瀬戸越2丁目1788		
自己評価作成日	令和6年1月16日	評価結果市町村受理日	令和6年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の笑顔をもっと職員モチベーションアップを考えて利用者様を最優先に考えております。色々な研修会に参加して職員のレベルアップ、グループラインを使用し全体ミーティングを行い意見交換などをしております。利用者様に対しては安全・安心・愛される、もっと優しくもっと温かくを理念として利用者様の意向を確認しながら、一人ひとりの生活がしやすく安らぎや居心地の良さがある暮らしが出来るように利用者様の想いを大切にしております。またご家族様にはさわやか新聞・電話連絡・さわやかでの様子を伝えてご家族様が安心してもらえるように心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年2月27日

ホームは閑静な場所にあり、入居者が穏やかに過ごされている様子が窺える。職員は理念の基、入居者とともに「さわやかな笑顔」があふれるよう入居者に寄り添った優しい介護の提供に努めている。法人内の関連事業所と互いに情報交換すると共に、法人全体で実施する各種研修を受講し職員のスキルアップや質の向上へ向け積極的に取り組んでいる。ホームは地域との繋がりを大切にし、近隣幼稚園児との交流や、商工会の清掃作業への参加等、一住民として積極的に地域と協力体制を築き、地域活動に参加することで、ホームの理解に繋げている。住民と協力しながら入居者が安心して暮らしていくために地域を支える努力を惜しまない姿勢が窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員理念を共有して朝礼後に唱和し、常に理念を踏まえてサービス提供を行っている。	ホームのフロアに法人理念及びホーム独自の理念を掲げ、朝礼後に唱和し、理念の浸透を図っている。理念に示された、笑顔、優しい介護を踏まえ、入居者への言葉遣いや、優しい接し方の実践を日々心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事・祭りへの参加や、幼稚園児の行事の参加を通じて地域との交流を図っている。	コロナ禍以前は、ホーム長を筆頭に地域に出向き、積極的に交流していた。コロナが5類に指定された昨年より、近隣幼稚園児の訪問受け入れや、幼稚園の運動会に入居者が参加するなど、地域との関わりを再開した。今後も商工会主催の清掃活動への参加等、地域に向けてホームができることがあれば声をかけてほしいと伝えており、地域に根付いた積極的な関わりを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加して、認知症に対する理解を深めていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、主な活動の状況、予定、利用者様の様子等を報告し、意見を聞きサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、他事業所職員、民生委員が構成メンバーとなっている。入居者状況、アクシデント、ヒヤリハット報告、行事報告や今後の予定、ホームの取り組み状況についてメンバーと意見交換し、質問を受け、会議内容を議事録に残しており、家族にも会議内容を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席いただき、助言をいただいたり、情報交換を行っている。	地域包括支援センターからの空床状況の問い合わせや、研修会の案内、市長寿社会課へメールで諸手続きの提出物や研修計画案内、生活福祉課には生活保護受給に関するやり取り等、行政機関と連携している。また、行事開催時には社会福祉協議会に機材の貸し出しを依頼する等、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて、身体拘束の内容、弊害を理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また朝礼後に3つのロックの唱和をしている。	毎日朝礼後に理念の唱和と身体拘束に該当する3つのロックの唱和を行っている。法人の各事業所で身体拘束防止委員を選任し、当委員が定期的開催する身体拘束適正化委員会に参加後は、ホームにフィードバックしている。また、身体拘束や虐待に関する内部研修を実施しており、学んだことは職員各自がレポートを作成して法人本部に提出するなど研鑽しており、身体拘束をしないケアや虐待の防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて高齢者虐待防止について理解を深めている。事業所内での虐待防止には十分注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について、研修などで学び、必要時に活用、支援できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には、十分な時間をとり、丁寧に説明している。また不安や疑問点が無いか、確認を取りながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者様の様子を伝え、意見交換を行うことで、サービスに活かせるように努めている。	現在、ホーム内の事務所で家族と面会を行っている。電話連絡時に入居者の生活状況を報告し、その際に家族の意見も聞き取っている。その内容を申し送りノートに記載し、情報共有に努めている。	職員間の情報共有が円滑にできていなかった点が窺えた。情報共有されていない場合に家族から不信感を招く恐れがあるため、トラブルを未然に防ぐためにも、あらためて情報共有の重要性を職員へ周知し、情報共有の徹底に取り組むことを期待する。また、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるように、第三者(外部)評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載するとともに、外部評価実施時には家族アンケートを行い家族の意見を汲み取る機会になる旨説明することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を行い、職員との話し合う機会を設けている、各担当者から意見や提案を聞き、業務に反映している。	運営上の職員の役割について、行事・おむつ管理・新聞作成・調理・生活費・虐待等、入居者の生活に関わる支援を各々担当制にしている。職員会議を通じて各担当から意見が出され、職員間で検討し、実践に繋げる方法を採用しながら入居者がホームで円滑に生活送れるよう支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を厳守している。また職員がやりがいを持って働けるように職場環境の整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修への参加を積極的に支援し、また資格取得を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加及び、グループホーム協会に加入し、同業者との交流の機会を設けるなど、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設を見学して頂いたり、ご自宅や病院に訪問するなどして、よく話を聞き、安心して暮らせるように環境整備や親しい関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に抱えている疑問や不安を解消することで信頼関係を築くよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時より必要とされる支援を見極め、施設サービス計画に反映している。また経過を見ながら、主治医や関係機関等と連携し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりから日常生活の知恵、助言をいただいたり、共に行うことで、お互いに支え合いながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡にて、利用者様に関する情報交換を密に行い、また定期的にさわやか新聞を発行するなど、ご家族との連携を強め、共に協力して支えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事の参加や馴染みの場所へのドライブ支援などをして関係継続に努めている	入居時に本人や家族から聞き取った馴染みの関係に関する情報をフェイスシートに落とし込み、入居後に知り得た情報を更に追記して入居者支援に活かしている。入居者が以前住んでいた場所へドライブに行ったり、地域行事への参加等、関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係や一人ひとりの性格を把握して、孤立しないように言葉かけを行ったり、レクリエーションを実地し、より良い関係が保てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、医療機関、関係施設等と連携し、必要に応じて今後について相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者様一人ひとりの話を聞き、本人の希望や思いを、ご家族にも協力頂きながら把握に努めている。	職員は日頃の会話の中で入居者がさりげなく話した内容に耳を傾け、その方の意向を把握している。また、面会時や電話連絡時に家族の意向を聞き取り、入居者支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族、担当職員、ケアマネ、サービス事業者等より情報を共有し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を観察し、現状の把握に努め、日々の記録を行い、職員が共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の意向を担当職員が中心となり、職員間で話し合い、意向に沿った介護計画を作成している。	入居者数名を職員2人体制で担当している。アセスメントと日頃の記録から本人の意向を把握すると共に、介護支援計画の見直し時に、長期目標・短期目標・サービス内容をサービス担当者会議を通じて検討し、介護支援専門員が原案を作成している。計画実施状況の把握とモニタリングについても担当者が主となって行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの気付いた点、特記事項等を、個別に記録している。また申し送りや会議等で情報を共有し、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望に可能な限り応えられるよう、ドライブや食事会等を実施その人の思いを実現できるように支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事等に参加し、ドライブ支援するなど、地域資源を活用し、利用者様が楽しめるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の意向を尊重し、入居前の病院に受診、相談等が円滑に行われている。基本的に職員が付き添い介助し、適切な医療が受けられるように支援をしている。	入居時にホームのかかりつけ医について説明している。入居者はホームのかかりつけ医による定期的な訪問診療を受診し、他科受診においては職員が同行支援を行っている。週1回訪問看護の看護師による健康管理が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携をとりながら、常に健康状態を把握、適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、利用者様の情報等を適切に提供し、入院中も病院関係者、ご家族等と情報交換を行い状態を把握し、退院時に適切な施設サービスの提供が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合における対応・看取りに関する指針等を説明し同意をえており、急変時には、利用者様及びご家族の希望を踏まえて、希望に沿った支援が出来るよう支援していく。	入居時に家族へ看取りに関するホームの指針を説明している。看取り期に関し、ホームのかかりつけ医による判断の下、家族は医師による説明を受け、ホームは最期をどう迎えたいかを家族に再確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って、緊急時の連絡体制も周知徹底されている。緊急時の対応について、知識、実践力が身に付くよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防計画に基づき、年2回総合訓練(消火訓練・通報訓練・避難訓練)を実地し、昼夜問わず迅速な避難誘導ができるような体制を整えている。	ホームは毎年3月と9月に避難訓練を実施している。消防署や消防用設備点検業者の立ち合いの下、昼夜問わず迅速な避難誘導ができるよう取り組んでおり、夜間想定訓練では実際に夜間帯に訓練を実施し、避難訓練の記録を詳細に残している。今年3月には消防署立ち合いの下で避難訓練を実施する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわなように言葉かけや対応に十分注意している。	「優しい介護」を理念に掲げ、職員は入居者に対応する言葉遣いに対して特に注意を払い、日々の支援に努めている。法人内に設置の接遇委員会による勉強会が月1回開催されており、参加した職員がホームに持ち帰り、他の職員に周知すると共に、研修資料を全職員に配布し入居者支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた支援や言葉かけを行っている。また利用者さん自身で決められるように ゆっくり待つことを忘れずに、本人が決めて行動出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にし、希望・意向を聞きながら、個々の思いに添った支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後の衣類は、本人に好みの衣類を選んで頂いており、季節に合ったものが選べるよう、適宜アドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に食事の味付け・次分け・片付けを行っている。また、バラエティーに富んだ献立と味付けに工夫して、家庭的な雰囲気作りにも努めている。	調理担当者が週3回、その他は朝食は早出、昼食は日勤、夕食は遅出の職員が調理を担当している。入居者に料理の味見をしてもらう等、食事に入居者が関わりや役割を持っている。誕生会のメニューは入居者へ食べたいものを聞いて提供したり、行事食にも工夫を凝らし、家庭的な食事を楽しむ支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事を提供した食事を提供し、毎食の食事摂取量を個別に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯の洗浄を促し、自分で出来る方は言葉かけ・見守りを行い、できない方は職員が一部介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、尿意のない方は、本人の様子や、時間により言葉かけや誘導を行い、トイレで排泄出来るよう支援している。	職員は排泄自立に向けた支援に努め、入居者各自の排泄パターンを把握し、個別の排泄誘導を行っている。昼間はトイレでの排泄に心がけ、おむつ等の使用についても家族の経済面での負担を考慮し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向け、運動や水分補給などを取り組み、自然排泄を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴できるよう支援している。本人の希望・状態に合わせて柔軟に対応し、気持ち良く入浴出来るよう支援している。	入浴は週2回を基本として実施しており、入浴の準備は毎日行っている。体調不良等で入浴できなかった際は予備日を日曜日に充てている。入浴後、足指の間をドライヤーで乾燥させ、皮膚疾患の感染予防に努めている。ヒートショックの対応として、湿温計の設置や外気との差を無くすため、エアコンやシャワーを用いて浴室内を予め温めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の活動を支援しながら、一人ひとりに応じた働きかけを行っている。また、お昼寝を希望される方など、その人の生活習慣に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する情報はいつでも確認できるよう整備している。また医師の指示どおり、服薬出来るように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や特技を活かした役割が持てるよう、支援している。バーベキューやドライブに出かけるなどして、楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事、ドライブ支援など、利用者様の希望に添った支援をしている。	コロナ禍で外出支援を自粛していたが、最近は感染状況を把握しながら入居者全員をドライブと外食支援を実施し、普段とは違う雰囲気により入居者の気分転嫁を図り笑顔を見ることができた。今後は同様の支援を2カ月に1回はできるよう計画を立てている。3月には花見と外食に出かける予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理に関しては入居時に家族と相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも手紙や電話の対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにイベントや飾りつけを、一緒に行っている。また、温度・湿度を測定し空調管理に努めている。	フロア等は清掃が行き届き、壁には季節を感じることができるよう職員と入居者が一緒に作成した作品が貼られている。定期的な換気に努め、入居者が安心して過ごせるよう環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどの配置に気を配り、顔見知りの方や、気の合う方々同士、話しやすい環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い馴れた物、馴染みのある物を持ってきて頂き、居心地よく、安心して過ごせるよう支援している。	居室には、入居者の思い入れのあるものが持ち込まれている。洋服筆筒、引出し筆筒以外は以前の馴染みのものが持ち込まれている。仏壇の持込みもあり、ろうそく等、火気類を使わず電球式ろうそくを使用し、朝夕の礼拝等、入居後も在宅生活での習慣を継続できるよう支援に努めている。	日中使用していないポータブルトイレについて、本人の使い勝手や動線を考慮した上で、必要に応じて目隠しや収納等を検討し、入居者にとって居心地良く過ごせるよう居室の環境整備に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じて、対応し安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		